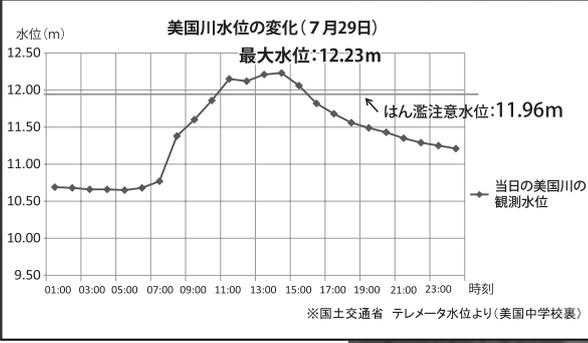
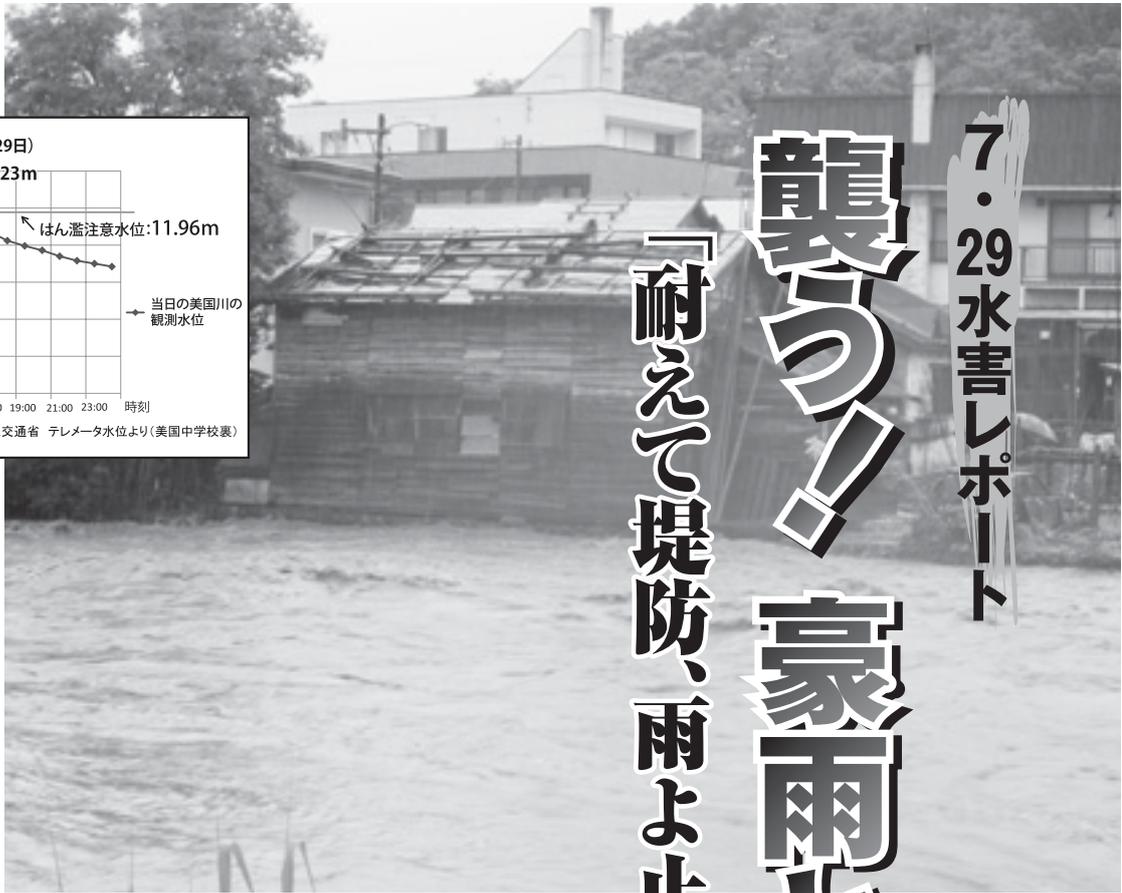


襲うつ！豪雨と濁流

「耐えて堤防、雨よ止んで！」



7月29日に積丹町を襲った大雨は、住宅20棟で一部破損や床上浸水、畑の冠水7ha、国道と道々野塚婦美線の一部が冠水や土砂崩れなどで通行止めになるなど大きな被害が発生しました。27日午前0時から29日午後8時までの総雨量は、美国町川上

の気象台観測地点で200・5ミリ、美国川は、はん濫注意水位を超える最大12・23mを記録。町では29日午前11時17分に美国町と余別町の一部に住民避難勧告を発令し、神岬町柵泊地区の自主的に避難した3世帯15人や観光客を含め、最大で住民84世帯合計172人が総合文化センターなどに避難しました。美国川はん濫のおそれによる住民避難勧告は、平成10年9月16日の台風5号上陸以来およそ12年ぶりのことです。

危機迫る中で水防活動と住民避難

町では、国道通行止めの直前までに消防、警察、国、道などの防災関係機関の連絡要員の町

大雨による被害状況
平成22年8月26日現在調査

項目	件数
住家被害	一部破損 1 棟
	床上浸水 2 棟
	床下浸水 17 棟
非住家被害	岬の湯しゃこたん 1 棟
農業被害	農地 6.98 ha
	農業用施設 2 箇所
	営農施設 2 箇所
土木被害	河川 17 箇所
	道路 8 箇所
	橋梁 1 箇所
	公園 2 箇所
	崖くずれ 3 箇所
	水路 1 箇所
	水産被害
林業被害	一般民有林 7 箇所
衛生被害	水道 3 箇所
	墓地 1 箇所
公立文教施設被害	小学校 2 箇所
その他	流雪溝 1 箇所

対策本部への駐在派遣を緊急要請し、小樽開発建設部や道小樽建設管理部(旧小樽土木現業所)など関係機関の職員が、町内の国道や美国川の監視、情報収集、交通規制、関係機関との連絡調整などに努めました。

また、町内の各集落内では、急激な河川や排水路からの溢水や住宅裏山の土砂崩れなども同時多発的に発生し、刻々と迫る危険な状況の中で、消防団員や警察駐在所、婦人防火クラブ、婦人会、自治会など地域総出で懸命の水防活動が行われました。

特に美国地区では、避難勧告の発令とともに増水した美国川の激しい濁流を目の当たりにしながら、緊迫した中で、町のバス2台などを利用して、栄町、柳町、寺町地区などの住民の迅速かつ安全な避難誘導が輸送班や避難所班などに班編成した町職員の指示のもとで行われ、12時50分には、21世帯35人の避難が完了しました。

しかし、午後2時には国が定める美国川のはん濫注意水位の11・96mを超える12・23mの最大水位に達し、堤防の決壊や積み上げた土嚢を越えて美国市街



▲余別小学校体育館が浸水

地への溢水被害の危険に迫る状況でした。

一方、余別町では余別川堤防敷地を越えた濁流が、余別小学校体育館東面を襲い、新川排水路の下流部では、住家の浸水や住民8世帯15人が漁協事務所に避難するなど危険にさらされました。

午後5時30分避難勧告は解除されましたが、大雨は大きな爪あとを残し、積丹町内から脱出できなかった多くの観光客も国道が開通した翌朝7時40分まで不安な一夜を過ごしました。



▲国道229号線美国橋は29日12時45分に通行止め規制

応急対策に努力

―町議会議員の災害視察も―

雨のあがった翌30日には、町職員による冠水箇所の消毒対策のほか、消防団、消防職員を加えた町道の泥水除去清掃が行われ、国・道・町による所管被災調査と応急対策が始まりました。

また、8月3日には、松井町長他職員と共に、町議会議員による被災現場視察も行われ、被災状況や今後の復旧対策上の課題などについての説明と意見交換が行われました。



▲冠水した町道の土砂除去作業(美国町柳町)

被害額2億5千万円超、調査続く

8月26日現在の被害額は、2億5千万円を超え、調査が進むにつれて増大することが確実の

ようです。

また、河道中洲の土砂や流木による2次災害防止対策が急がれているほか、国や道が管理する道路や美国川、積丹川、町が行う両河川の支流や余別川、入舸川、日司川そして各集落内の小さな排水路や住家の裏山などの恒久的な防災対策の必要性や、道路・河川の日常の維持管理と防災情報伝達のあり方などが大きな課題として浮彫りとなりました。

厳しさを増す国・道の公共事業予算状況の中、財政再建途上の積丹町は、大きな懸案課題をまた一つ抱えることとなります。美国川河川改修工事の一日も早い着工による河道の拡幅などが待たれる現実を再認識させられた災害でした。



▲大量の流木と土砂で遮られた美国川

防災対策の強化と住民意識の向上を

積丹半島の先端に位置する積丹町、古平町、神恵内村にまたがる上流山岳地帯への短時間での集中豪雨。国・道・町が連携した防災対策の強化の重要性が痛感させられた一方で、いつ襲

自治会等連合会余別支部が各世帯にランタンを配布

地域で高まる防災意識と援けあい



いかかるか分からない自然災害に對し、日頃から不意の避難にあわてないように、貴重品や下着、応急医薬品、非常用食糧、ラジオ、懐中電灯など必要最小限のものはあらかじめ用意するなど、町民の皆さんにもより一層の防災意識の向上をお願いしたいものです。

ランタンには、「援けあう気持ちを大切に」との願いを込めて「心の灯」と名付けられました。

積丹町自治会等連合会余別支部(井端順司会長)では、災害の発生に備え、非常時用携帯電灯(ランタン)を地区全世帯数の約半数にあたる70世帯に無償配布しました。今年4月25日に発生した11時間を超える停電では、通電再開までろうそくで明かりをとっていた世帯も多くみられ、

井端会長は、「高齢化が進むなか、地域がお互いに援けあうことができますように」になってきている。「心の灯」の配布が災害時の備えとなり、また、地域のきずなを深めるきっかけとなってくれば嬉しい。」と話してくれました。

今回の配布は、高齢者のみの世帯などを優先して行い、順次、4単位自治会の全世帯に配布することとしています。